

傳設計ニュースレター

CONTENTS

◆ 今、伝えたいこと

～DX編その2

「建築分野のDX(BIM)」～

◆ 外壁改修設計を終え

監理業務 へ

◆ 大規模改修の

監理業務を終えて

◆ 工事監理について

～鉄筋圧接～

◆ 建築系遮熱塗料のメー

カーシェア4年連続No. 1獲得

～株式会社アステックペイント様～

◆ 「FUKUOKA東区

花火大会」復活

◆ 「博多どんたく」に

初めて参加しました！

◆ 社員名鑑



今、伝えたいこと ～DX編その2「建築分野のDX(BIM)」～

皆さま、こんにちは。新型コロナウイルスが5類感染症に位置付けられ、感染対策の転換期を迎えた今年は、梅雨明けが待ち遠しく、既に夏のイベントの予定を立てている方もおられるでしょう。

さて、前回触れたDXについて、不定期での掲載を考えておりましたが、まだまだ「DX」という単語が専ら私の頭の中を駆け巡っておりますので今月号も少しばかりお話しさせていただきます。

建築分野のDX化の一つに「建築BIMの社会実装」というものがあります。BIMとは3次元の建物デジタルモデルを構築していくものです。数年前のニュースレターでBIMの推進と普及についてお伝えしたことがありますが、当時に比べて現在はDX化が注目されている分、更にその流れに勢いが増したと感じています。

改めてにはなりますが、CAD(二次元)では平面図や立面図など各種図面を個別に作図しなければならず、壁や設備等の属性情報は図面に一つ一つ追記していくというアナログ的な方法で連携しています。BIMであれば1つの3次元形状モデルの作成のみで、そのモデルに構造や材種などの属性情報を構築段階で付加することができます。設計におけるメリットとしては他にも、お客様や関係者への提案・イメージの共有などももちろんあげられますが、なぜ建築分野のDXにBIMがあげられているのかというと、これら設計段階の話だけではありません。

将来的に国では、全てがBIM化された「建築物のデジタル情報」と、3Dの都市モデル(都市のデジタル情報)によるオープンデータをつくり、それに不動産・交通・物流などの様々な情報を連携させることを目指しています。その結果、建築物を起点とした新たな産業・サービスの創出や、建築と地域の連携による地域開発、まちづくりなどの取組みを行政と地域住民と進めていくことができます。

前号で私は“DX(情報(デジタルデータ)の連携・蓄積・活用)を進めることで、より創造的・生産的な作業ができる”とお伝えしました。まさに国全体でもそれを目指しているのです。少し話が大きくなってしまいましたが、これからのBIMは、DX化の世の中で「建築物のデータベース」としての役割が大きくなっていくのではないのでしょうか。

(代表取締役 岩本 茂美)



★先日、旅行にいきました★

岩本 茂美 (いわもと しげみ)

株式会社傳設計 代表取締役

《最近のこと》

今年に入ってから業務の隙間時間を見つけて、週1～2回ストレッチ専門店に通っています。正直、拷問かと思えるようなストレッチもありますが(泣)、毎回帰り道は足腰が軽く、効果を実感するのでやめられません！まだまだ現役でいるためにも当分は続ける予定です。



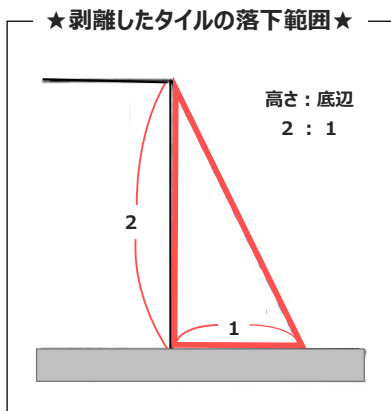
★外壁改修設計を終え監理業務へ★

昨年度の業務にて、某庁舎の外壁と屋根改修設計を行い、引き続き監理業務を行う事となりました。

今回の設計では屋根の改修(主要構造部)であるため、「主要構造部の一種以上について行う過半の修繕・模様替え」に該当してしまうと確認申請を提出する必要がありました。その為にもカバー工法で検討するとともに、安全性を示すため構造検討を行いました。

結果として役所との協議を進め、確認申請の提出は不要となり設計期間を変更することなく納めることが出来ました。また、外壁改修の検討については現地調査を含め、仕上げ材の提案や補修工法の確認を行っていただきました。協力会社様のご尽力があってこそ発注者様の信頼を得ることができた業務になったと思います。ありがとうございました。

今後は監理業務となりますが、施工者との協力の下に打診検査を行っていきます。



今回はタイル面が多い為、タイルの浮きにも気を付けて検査を行わなければなりません。もし、タイルの浮きをそのまま放置してしまうと、そこから剥落してしまい歩行者に当たってしまう事故が考えられます。

この見落としが無いように監理業務では、施工者が検査をした後に、監理を行っているものが同様の検査を行います。この検査を工程ごとに何度も行う事で外壁の安全を確保していく事となる重要な検査です。

これからの検査においても丁寧に行い、改修する建物がこれからも長く安全に使い続けられるように進めていきたいと思っています。(朝倉)

傳設計
設計業務

近年、改修の案件も増える中で、入社3年目の後半より、某公共施設の大規模改修の監理業務を担当しました。

大規模改修となると、新築を建てる時にはないような、既存の建物と新たに建てる部分との取り合いの調整が随時求められました。

現場に毎週1、2回程行き、関係者と議論したり、現場の状況を見たりして、問題点などに対応する日々でした。現場で確認した問題点等については、その場で話し合ったり、一度持ち帰って技術的な情報を集めたりして、解決方法を考えました。まだ現場経験が浅い私にとって、1つのことをこなすにも時間がかかり大変ではありましたが、目の前で建物が出来上がっていく姿はとても感慨深いものがあり、大変よい経験をさせていただいたと感じています。

問題が起きたときに、私の提案に対し、丁寧に話をしていただいたり、一緒に解決方法を考えていただいたりと、現場の方々にとっても感謝しております。



また現場では、たくさんの職人さんの作業を間近で見ることができました。さらに、職人さんの粋なはからい

を感じました。そして、日々事務所で設計している時より圧倒的な情報量が得られたことは、自分にとっての大きな財産になったと感じています。

そして、防水・床材・建具・家具等々のメーカーさんや業者さんから技術提供や提案をしていただき、とても勉強になりました。

今回の大規模改修の監理業務を通じ、たくさんの人との関わりがあって、建物ができていることをあらためて感じました。この建物が今回の改修によりこれからも長く人々に親しまれながら使われ続けるものになってほしいと思います。

さらに、今後も皆さんとのつながりを大切にして、設計に取り組んでいきたいと思っています。(緒方)

★大規模改修の監理業務を終えて★

NEW&HOT
TOPIX

★工事監理について～鉄筋圧接～★

工事監理の主な業務は現場の施工が図面通りに行われているかを確認することです。

その中でも今回は鉄筋の「圧接」の検査についてお話しします。

一般的に建物に使用される鉄筋の長さは12m以下で工場で製作されます。そこで12m以上の鉄筋が必要になった場合、溶接や圧接といった方法により現場で2本の鉄筋を1本に繋げます。2本の鉄筋を1本にしているわけですから当然その継手の部分が弱点となってしまう

す。その弱点を無くすために満たさなければならない基準があります。

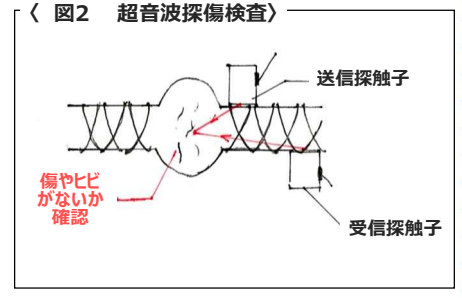
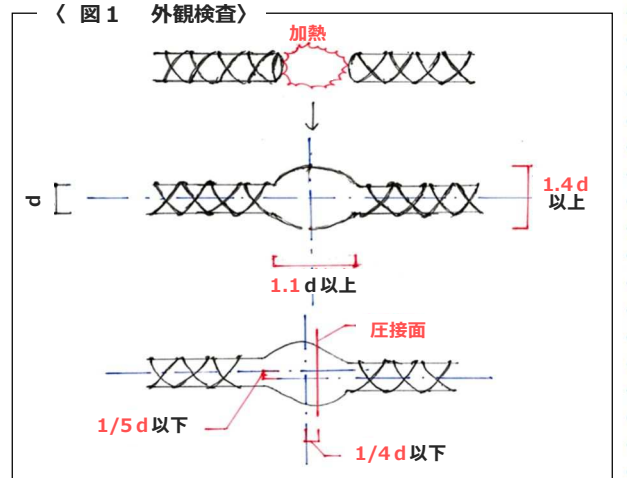
工事監理の業務では、この圧接が基準通りに施工されているかをチェックします。

チェックする項目は大きく分けて2つあります。

- ・外観検査
- ・非破壊検査

(超音波探傷試験)

外観検査は図1のようなポイントが満たされているかを計測して確認します。非破壊検査では図2のような機器を鉄筋に当てて傷やひび割れがないかを超音波で確認します。こうした検査は設計時に想定されている強度等を確保するうえで大切です。(田中)



今回は福岡を拠点に、全国展開されている株式会社アステックペイント様にお話しを伺いました。

「塗料業界最大手の業界新聞『ペイント&コーティングジャーナル第3479号(2023年3月22日号)』にて、アステックペイントが、数ある塗料メーカーの中で遮熱塗料のメーカーシェア4年連続No.1を獲得いたしました。

当社は遮熱塗料の直接的な機能や性能だけに着目せず、遮熱塗料がもたらす環境保全の観点から消費者に提案できることを意識してきました。それは塗装による「資産保全」という概念を基本にした考えです。

塗装を定期的に行わないと建物は確実に劣化し、寿命が著しく低下し

ます。その定期的に行う必要がある塗装の際に、「少しコストを足して」遮熱機能という付加価値の提案を推奨しています。「夏の炎天下、日射が当たる外壁が熱くなるのは多く



の人が体感的に理解されており、その熱のダメージを抑えることで屋根や外壁が長持ちする切り口は納得感が得られやすいです。それに加えて「いつまでもキレイ」といった基本的な欲求を満たす低汚染性能などが複合的に支持され販売を伸ばし

てきました。

今後は、住宅や工場だけでなくビルやマンションなどの市場でも高品質・高機能塗料での差別化や建物の長寿命化に貢献したいと考えております。

当社は塗料流通を介さず直接取引で事業展開しておりご存じない方も多いかと思います。地元福岡の塗料メーカーですので遠慮なくご相談下さいませ。」

7月、夏本番となりました。これから更に暑さも増していきます。遮熱機能がより一層求められるかと思ひます。

遮熱塗料についてお考えの方は、弊社設計部までお問合せ下さい。よりよい方法をご提案させていただきます。(藤田)

★建築系遮熱塗料のメーカーシェア4年連続No.1獲得
～株式会社アステックペイント様～★

★「FUKUOKA東区花火大会」復活★

私は福岡市東区に住んでいたので、子供が小さいときは、香椎の花火大会をよく見に行きました。終盤の大玉花火の連発は、圧巻でした。私の中でNo. 1です。

その花火大会が6年ぶりに4月22日(土)開催されました。私がお話した香椎の方は、「いろいろな理由で5年間のブランクがあり、準備の仕方を忘れていたため、準備が大変だった。」と言われていました。

弊社も2019年に舞鶴に移転する前は、福岡市東区香椎にあり、地域貢献として若手社員と香椎地区のイベントや花火大会に3、4年ほど参加していました。そのため、この花火大会の復活をとてうれしく思いました。地域の方々の協力で開催されるこの花火大会を、素晴らしいと思います。その大会の開催に少しでもお手伝いできたことを誇らしく思っています。私たちは、直接お手伝いはできませんが、「FUKUOKA東区花火大会」チャリティゴルフ大会参加など離れたところからできる応援をしています。また来年も楽しみにしています。(岩本(玲))



社員名鑑 vol.47

★「博多どんたく」に初めて参加しました！★

沖縄の三線の音に魅了され、3年ほど前から練習を始めました。三線を通じ多くの出会いがあり、約半年前から八重山古典民謡を習っています。

ご縁があって、「博多どんたく」の演舞台、路地裏でそれぞれ1か所、そして全体パレードに参加させていただきました。パレード参加者は1万6000人、観客数は200万人超えとその中での演奏でした。初めてのことで緊張しましたがとても楽しい、貴重な経験になりました。沿道のお客様がとても温かく、改めて福岡の歴史ある良い文化に触れることが出来ました。

福岡には三線教室や三線サークルなどがいくつかある中、パレードには100名ほどが集まり皆で同じ歌を歌い、三線を演奏して演者でありながらも感動した30分でした。沖縄の中でも沖縄本島、宮古島地方、八重山地方と地域が分かれており、その中でもポップスや民謡、古典などジャンルも様々です。三線に興味のある方は一度触れてみてはいかがでしょうか。(甲斐)



◆編集後記///今月号より担当が上田/高野となりました。弊社のことや建築にまつわることはもちろんのこと、皆さまに興味を抱いていただける情報や、近隣での出来事などを発信し、皆様方との関わりをより深めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。/アンケートを同封しておりますので、ニュースレターのご意見、ご感想をお聞かせいただけましたら、幸いです。 (上田/高野)



「想い・安全・未来をカタチに」
株式会社 傳設計
DEN ARCH. & ENG. OFFICE

〒810-0073

福岡市中央区舞鶴1-6-13 舞鶴DSビル

TEL:092-737-1500 (代表)

FAX:092-737-1501

